

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 学



新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様、ならびにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は、京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥教授が、英国のジョン・ガードン博士とともにノーベル生理学・医学賞を受賞したことは、東日本大震災からの復興の遅れや政治の混迷が続く我が国にとって明るいニュースとなりました。この受賞は、様々な種類の細胞に変化できるiPS細胞(新型万能細胞)を作製したことに対するものです。iPS細胞は、病気の原因の解明、新しい薬の開発、細胞移植治療などの再生医療に活用できると考えられ、日本で生まれたこの新しい技術は、世界中で評価され、また患者さんからも大きな期待を集めております。今後のiPS細胞の研究発展においても試薬が大きな役割を担っているものと認識し、当社におきましても気を引き締めてサポートして参りたいと考えております。

我が国の経済は、年末にかけての円高修正の動きがあったものの世界景気の減速によって悪化し、特にハイテク関連を始めとする輸出企業は大きな打撃を受けました。これにより、今後の事業の種となる研究開発投資は見直されているようですが、グローバル競争を勝ち抜くうえで、研究開発を軸として独自性のある事業拡大を図ることは重要な戦略です。当社はこのような皆様をサポート

できるよう更に多岐の事業分野においてCica試薬を供給して参ります。具体的には、昨年4月から試薬事業の機構改革を実施し、安心して豊かな生活を営むことに大きな役割を果たす医薬や食品分野向けの製品、ならびに化成品関連分野の原料や中間体などの製品強化を図っております。試薬、電子材料、ライフサイエンス分野とともに基礎研究から応用研究に至るまで、新技術、新製品で幅広い分野の皆様のお役に立てるよう努力を続けて参る所存であります。

当社はCSR活動の取り組み強化として、お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンターの増田優教授が中心となり開催している『知の市場』と称する社会人向け公開講座において、『試薬論』という無料公開講座(2時間×15回)を昨年開講いたしました。今年はさらに一歩進めて、各種講座を開講する開講機関としての活動も検討中であります。今後も当社は、科学の進歩を支える化学薬品メーカーとして、最上の品性と、最高の権威と、最大の努力をもって業界の先駆者たる責任を再確認し、当社にしかできないCSR活動を通じて微力ながらも社会に対し貢献して参りたいと考えております。何卒、これからも当社へのご期待、ご要望をお聞かせ頂ければ幸いです。

皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。